

目指す学校像	TOKIWA PRIDE＝輝く常盤中＝ わかる授業 明るい学級 夢をはぐくむ学校		
重点目標	1 主体的、対話的で深い学びの推進と学びの自律化 2 信頼関係に基づく指導と多様性への対応 3 地域とともにある学校への当事者としての関わり 4 とともに学び、希望を胸に、和で対応する高信頼性組織の構築		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日 令和5年2月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【学力向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学の結果は、全国、市平均と比べ、とても良好である。 ○全国体力・運動能力、生活習慣等調査において、実技集計の結果は、全国、市平均と比べ概ね良好である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の自校の結果分析から、国語の「読むこと」、数学の「資料の活用」に関する平均正答率が、他の設問の平均正答率と比べ、やや低かった。 ○全国学力・学習状況調査において、コロナで学校が休校中、勉強について不安を感じていた生徒の割合が、全国、市平均と比べ、高かった。	・GIGA スクール構想を活用したアクティブラーニングの推進 ・個別最適な学びの実践と、読解力向上、学びの自律化	①「主体的・対話的で深い学び」についての研究を進め、デジタル教科書やICT 機能を活用した授業により、生徒の学び続ける意欲・態度を高める。 ②全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査について、採点結果から生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	①学校評価「自ら考え、周囲と話し合う学習を進めている」生徒の割合が95％以上となったか。 ②学習状況調査の採点結果をもとに、生徒自らがこれまでの学習を確認、評価し、今後の学びに生かすことができたか。	①学校評価「自ら考え、周囲と話し合う学習を進めている」と回答した生徒の割合は95.9％であり、学び続ける意欲・態度を高めることができた。 ②学習状況調査の結果を各教科の授業において、その都度解説や活用をしたことで、生徒が自身の学習内容の理解度を確認し、復習等に生かすことができた。	A	ICT を活用した学びを一層推進することが課題である。 そこで、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を引き続き実施し、「教える」授業から「ともに学ぶ」授業へと学びのポイントを移行する。	○アクティブ・ラーニングに対する取組に魅力を感じる。 ○学校評価結果によると、自己の将来について、生徒がよく考えていることが分かる。一方で、生徒が自身の将来について考える機会を学校でより提供することはできないか。 ○親子ともに、忙しい日々を送っているようだが、その中でも自己の将来を見つめ、努力している様子が窺える。	
			①日課表を見直し、朝読書の時間を確保することで読書に親しみ、生徒の読む力を高める。 ②「ドリルパーク」「スタディサブリ」の活用や、チャレンジスクールへの参加を通して、個に応じた学びを推奨する。	①毎日の生活に「朝読書」の時間を確保できたか。集中して本や資料を読むことができたか。 ②単元や学期ごとに、生徒それぞれの学習への取組状況を確認し、個々の努力を承認したか。	①朝読書を毎日10分間、日課に位置づけ、読書時間を確保した。結果、図書館の貸出図書数を昨年度より増やすことができた。 ②単元のまとめや定期テスト、課題等から生徒の学習状況を見取り、賞賛することで、生徒の主体的に学ぶ意欲を高めた。チャレンジスクールへの参加は66名おり、1年生を中心に自学の習慣が身についた。		B		多様な学びの場の実現に向け、オンライン授業の実施方法等について確立する必要がある。 そこで、オンライン授業の学び方のルールづくりや学習評価の仕方について研究していく。 また、学習室利用についても同様に研究する。
2	【安心・安全に関する取組】 (現状) ○全国学力、学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が全国、市平均と比べ、高い。 ○昨年度、登下校中の怪我が5件発生した。自転車と、自転車や人、物との接触事故だった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感が、生徒の内面を傷つけ、精神的に不安定なものが多い。 ○コロナ禍の感染状況等により、教育活動の制限や学級閉鎖等が、いつ起こるかわからない状況にある。 ○築50年となる校舎や施設について、老朽化による破損等が多い。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒指導の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①目と目を合わせた毎朝の健康観察や何気ない会話から、生徒の小さな変化を見逃さない風土をつくる。 ②毎学期の「ほのぼのタイム」や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ③生徒の主体性を生かした生徒委員会や部活動での取組を支援、推奨する。	①各学級で担任等による一日の始まりが円滑に行えたか。 ②生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ③学校評価「係や委員会活動等に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が95％以上となったか。	①朝の出席確認では、生徒の目を見ながら呼名をした。また教員間では、生徒それぞれの会話が多く聞かれ、指導に生かされた。 ②「ほのぼのタイム」を効果的に活用し、生徒一人ひとりに寄り添った相談を担任や組織で丁寧・迅速に行うことができた。 ③生徒の回答は93.2％だったが、生徒の自主的に活動する姿が増えている。	B	心に不安や悩みを抱える生徒が多く、個に寄り添った指導が求められている。 そこで、豊かな体験活動を推進し、非認知能力EQ（協調性や共感性、思いやり、創造力、状況把握能力等）を向上させ、心の支えを進める。	○心に不安を抱えてしまった際にいろいろな相談窓口があることを、生徒へ紹介する必要がある。 ○コロナ禍の影響で出勤できない大人が増えている。同様に不登校生徒も増加していると聞く。学校とともに地域が支えていく必要がある。 ○思春期の不安定な心情に対して、引き続き対応をお願いしたい。 ○施設の老朽化について、校舎の建て替えなどにより、学校をより魅力あるものにできるのではないかと。	
			①自転車通学を中心とした交通安全に関する集会を設け、登下校等、移動時の事故を未然に防ぐ。 ②各自の責任と生徒委員会活動の徹底により、コロナ感染症拡大防止行動を継続する。 ③施設設備の安全点検等から、不具合を早期発見し、素早い修繕等に繋げる。	①適宜適切な安全集会を開催し、生徒自身が身を守る意識を高めることができたか。 ②学校評価「感染対策を心がけて生活している」生徒の割合が95％以上となったか。 ③施設等の瑕疵を見通ごすことなく、修繕することができたか。	①年度当初や安全を脅かす事案が発生した際には、交通ルール遵守の大切さを集会で呼びかけた。また地域やPTA、警察等の協力のもと、登下校の見守りを実施した。 ②生徒の回答は96.4％となり、感染症を防止するための行動が維持できた。 ③定期的に施設を点検し、予算の範囲内で修繕を行ったり、依頼したりした。		A		生徒にとって学校が居心地のよいWell-being な場所となるために、生徒が主体となった活動を一層推進する必要がある。 そこで、生徒委員会活動の一環として生徒朝会を定期的に設け、生徒の自治と運営を支えていく。
3	【開かれた学校づくりに関する取組】 (現状) ○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、生徒に身に付けさせたい力について熟議を重ねた。その結果、コミュニケーション力の育成に向け、あいさつの励行を徹底することを共有した。 (課題) ○コロナ禍の感染状況等から、教育活動を参観・公開することに制限があり、学校からの情報発信に留まっている。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの始動 ・便りやHP、安心メールを活用した情報発信と、教育活動参観の機会設定	①生徒の成長を支える当事者としての自覚を生徒自身、職員、保護者、地域住民それぞれに促す。 ②育てたい力「コミュニケーション力」の育成に向けた挨拶を励行する。 ③関係小学校との連携により、学校運営協議会を円滑に開催する。	①生徒への意識付け、保護者地域への説明を年度当初に行えたか。 ②目指す挨拶の仕方・姿を検討し、学校、家庭、地域で共有できたか。 ③常盤小学校、常盤北小学校との情報交換を密にし、同一の目標に向かって生徒の活動を支えたか。	①年度当初の保護者会等にて、誰もが生徒を支える当事者となることを依頼した。 ②学校運営協議会に生徒・職員も参加して、挨拶についての熟議を重ねた。その結果を地域・保護者・生徒へ伝達し共有した。 ③小・中合同の学校運営協議会や児童会・生徒会合同のあいさつ運動を実施し、相互理解を深めた。	B	コミュニティ・スクールに関する保護者や地域への一層の情報発信が課題である。 そこで、便りの発行や北浦和駅へのポスター掲示等を継続するとともに、互いが当事者となって活動した取組の様子を、新たにHPを開設して発信する。	○目を合わせて出席確認をするのがよいと思う。 ○あいさつ運動、ポスターの掲示などの取組から、地域への波及効果を感じた。 ○あいさつは自然にするものであり、長い目で生徒たちを見守っていく必要がある。 ○学校評価結果では、大人のあいさつの状況がよくないこと気になる。 ○地域の回覧板によって学校だよりが回ってくる。これにより学校がより身近に感じられる。	
			①毎日の学校HPの更新や、毎月の便りの発行等により学校の情報を広く公開する。 ②学校運営協議会の様子を知らせる便りを新たに発行し、学校・家庭・地域が一体となった活動を共有する。 ③コロナ禍、可能な限りの授業や部活動、行事の参観を実施する。	①学校評価「情報をわかりやすく発信している」と思う保護者の割合が92％以上となったか。 ②「コミュニティ・スクール便り」を発行し、活動を地域へ伝えることができたか。 ③毎学期、保護者の学校への来校機会を設定できたか。	①保護者の回答は91.2％だった。HP閲覧数は約1万件/月あり、関心の高さが伺える。 ②学校、PTA、生徒会がそれぞれ便りを発行し、地域・保護者・生徒へ学校運営協議会の熟議の内容や活動等を広報した。 ③感染対策を施し、4、12、3月に保護者会や学級懇談、授業参観等を実施し、生徒の活躍の様子を公開した。		A		情報を伝える手段として、現在は紙面を用いているが、メールやHPを活用した伝達を望む声があった。 そこで、紙面以外の情報伝達手段について研究する。 また、学校公開の対象を広げ、地域の皆様にも参観いただく機会を設ける。
4	【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、ICTの活用等、研修が計画的に行われている。 (課題) ○全職員で取り組む学校課題研究やSTEAMS TIME等での新たな学び合いと高信頼性組織の意識付けが求められる。	・協調と創意を基盤とし、挑戦を奨励する組織の醸成	①新たな取組であるSTEAMS TIMEについて、校内研修を通して学び合い、指導に生かす。 ②3年間の学校課題研究「主体的・対話的で深い学び」について、これまでの取組を冊子にまとめ、その成果を研究授業として9月に発表する。 ③職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。	①探求的な学習の基盤となる学びについて校内研修を実施し、職員間で知識や意見の交換、新たな方策の検討、情報共有等ができたか。 ②発表までの準備を日々の活動の中で計画的に行い、当日を迎えることができたか。発表後、研究から得た事柄を次の指導に生かしているか。 ③職員個々が計画した人事自己評価における「研修」が予定通りに進められたか。	①夏季休業中にSTEAMS TIMEに関する研修を行い、学習内容等についての理解し、生徒の探求心を広げる指導を行った。 ②学校課題研究発表に向け、計画的に準備を進めた。参観者の研修成果を称賛する評価は100％であり、校内でも研究から得たことを教員同士が学び合うなど、授業改善に努める姿勢が向上した。 ③人事当初面談で計画した研修内容を教員各自が意識し、自主的に研修に臨み、資質向上につなげる姿が多く見られた。	A	時代の求めに応じた新たな取組が様々求められる中、持続可能な働き方も同時に求められている。 そこで、ICTを活用した学びの推進とともに、新たに導入されるスクール・ダッシュボードを活用した生徒の学習・生活・健康面の記録や教員の指導・支援の記録の蓄積を業務改善につなげていく。	○教員どうしが学び合い、指導力向上を目指している様子が見える。 ○研究発表に向けた取組が、生徒の学力向上につながっているようで心強い。	